

改定委員会での主な意見

第 1 回改定委員会【令和 4 年 8 月 31 日（水）】

- ・ 地域の声を聞きながら農地を守っていくことが出来れば、
農業者が手放さざるを得なくなった農地もその役割を誰かが担い、
守ることができるのではないかと。
- ・ 農地を維持していくには後継者や相続税の問題が課題である。
- ・ 農業体験や水とみどりを含めたコンテンツを活用して
コミュニケーションを高めていけば江戸川区の地域力が上がっていくと思う。
- ・ 地場で生産物がうまく循環するような仕組みになると
農業そのものに活力が出ると思う。
- ・ 農地を守っていくことが重要
- ・ コロナ禍で屋外での過ごし方が見直されてきている中、
今後はみどりでどう過ごしていくかが重要になってくる。
- ・ 一人一人がみどりを増やすことが大切。
- ・ 現在の素敵な環境を
後世・孫の時代にどうしたら伝えることができるのかを考えていきたい。
- ・ ボランティア・業者・区の 3 者が、同じ価値観を持ち、同じ目標に向かって、
コミュニケーションを取りながら行動することが大事である。
- ・ ボランティアやイベントなどを通して地域が活性化されることで、
みどりも守られていくのではないかと。
- ・ コロナ禍でみどりは「身近な過ごす場」としての認識が高まった。
今回の計画でもそのような視点を盛り込んでいきたい。
- ・ SDGs の考え方を今回の計画に反映してはどうか。
- ・ 江戸川区の豊かな水資源を活用した計画にしたい。
- ・ 量だけでなく、質という視点を充実させることで、
「江戸川区らしい」計画になるのではないかと。
- ・ みどりと水に関して区民とコミュニケーションを高めることで、
計画の意味や江戸川区の地域力が上がる。

改定委員会での主な意見

第2回改定委員会【令和4年12月12日（月）】

- ・ みどりに興味の無い方に、どのように興味を持っていただくか、意見を挙げていただくかということが非常に重要。
- ・ 小学校を通して子どもにアプローチをし、区のみどりや地域資源などについて、学習機会を与えることが重要。子どもから親に伝わり、地域が繋がることで、地元愛や地域密着の考えに結びつく。
- ・ 学校給食の廃棄物などを農地の肥料などに活用することで、循環型のみどりとして発展させることができるのではないかと。20年後、30年後の未来を見据えた上で、持続型社会（SDGs）やカーボンニュートラルなどの視点を計画に入れ込んでほしい。
- ・ 木の廃棄物の再利用などについても、計画内で触れてはどうか。
- ・ 落ち葉などを堆肥化する堆肥ステーションの整備をしてはどうか。
- ・ 企業と連携して、環境やみどりに対して考えてもらう機会を与えることが重要。今は、周知することが重要な時代に差し掛かっており、アナウンスやコマーシャルをしっかりと行い、意識を高める取組を推進するべき。
- ・ 区民農園について、低未利用地や空き家・空き地を活用して、さらなる拡充を行ってはどうか。現状では、区民農園は15㎡ほどの面積であるが、できるだけ大きな面積を確保し、様々な人が交流できるような整備を行ってはどうか。
- ・ 生物多様性を考える際は、生物が豊かになるための基本事項を検討し、基本的な部分をどのように整備するかという施策を計画に入れ込んでほしい。
- ・ 将来像に「農」を入れ込むのであれば、全ての方針で「農」に関する内容を入れ込めるとよい。
- ・ 「みどりの役割」について、平成25年策定の現行計画においては、東日本大震災を踏まえ、防災に関する内容を一番上に記載している。改定計画では、新たに農や生物多様性の視点を追加していることから、役割の順番については再度議論しても良いのではないかと。
- ・ 樹木による二酸化炭素の固定という視点は入れ込めるのではないかと。
- ・ ただ居るだけで何かいいなと思える公園ができるといいと思う。
- ・ 公園ごとに色々な特徴を出せると良い。